2026年11月12日

各　位

会　社　名　株式会社セキュア
代表者名　代表取締役社長　谷口　辰成
（コード番号：4264　東証グロース）
問合せ先　取締役 Co-CFO　佐藤　仁美
（TEL.03-6911-0660）

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年2月13日に公表した2026年12月期（2026年1月1日～2026年12月31日）の通期の連結業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

1．当期の連結業績予想数値の修正（2026年1月1日～2026年12月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	8,206	620	600	410	72.70
今回修正予想（B）	9,200	400	365	未定	未定
増減額（B－A）	994	△220	△235	－	－
増減率（％）	12.1%	△35.5%	△39.2%	－	－
（参考）前期連結実績（2025年12月期）	6,840	326	299	187	34.30

2．修正の理由

当社グループが属するセキュリティ関連市場においては、「安心・安全」に対する社会的関心が高まる中、防犯・リスクマネジメントの観点のみならず、人手不足への対応を目的とした活用も進んでおり、防犯・監視・入退室管理などの需要は引き続き拡大しております。こうした背景のもと、当社グループにおいても、既存領域にとどまらない活用シーンの拡大を見据えた事業活動を推進してまいりました。

当期（2026年12月期）の期初業績予想（2026年2月13日公表）は、既存事業の成長を前提として策定しており、その後に実施したM&Aによる影響は織り込んでおりませんでした。当期においては、2026年4月に株式会社TOUCH TO GO（以下「TTG」）、同年7月に株式会社テスコムジャパンの株式を取得してそれぞれ連結子会社化したほか、日東通信株式会社の株式取得（2026年12月18日実行予定）を決定し、計3件のM&Aを実施・決定しております。

連結売上高につきましては、既存事業が概ね計画どおり推移していることに加え、TTG及び株式会社

テスコムジャパンの連結子会社化に伴い両社の業績を取り込むことにより、前回発表予想を上回る 9,200 百万円となる見込みです。

利益面につきましては、主に以下の要因により、連結営業利益は 400 百万円、連結経常利益は 365 百万円となり、いずれも前回発表予想を下回る見込みとなりました。

① 上記3件の M&A の実施に伴い、仲介手数料、デューデリジェンス費用及び PMI（買収後の統合プロセス）費用等の一過性費用 93～113 百万円を計上すること
② M&A により新たに発生したのれん償却費用・監査関連費用合計 32 百万円を計上すること
③ 投資フェーズにある TTG において営業損失 75～95 百万円を計上する見込みであること

また、連結経常利益につきましては、リコージャパン株式会社への第三者割当増資に係る株式交付費およびM&A資金として新たに調達した借入金に係る利息合計 15 百万円を計上する見込みとなります。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり連結当期純利益につきましては、3 社の子会社取得に伴い、子会社の繰延税金資産の回収可能性について検討を継続しておりますが、税金費用及び親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する可能性があり、現時点ではこれらを合理的に見積もることが困難であるため、未定といたします。合理的な見積りが可能となった時点で速やかに開示いたします。

3. 今後の見通し

今回の修正は、主に M&A の実施に伴う一過性費用及びのれん償却費用の発生並びに投資フェーズにある TTG の営業損失によるものであり、当社グループの既存事業の収益力及び中長期的な成長戦略に大きな影響を与えるものではないと認識しております。今後は、TTG において当社グループの販路・顧客基盤を活用した事業の立て直しを進めるとともに、新たにグループに加わった各社とのシナジー創出を通じて、企業価値の向上に取り組んでまいります。これらの取り組みにより、2027 年 12 月期は連結営業利益で 8 億円[注1]以上を目指したいと考えております。

（注1）2027 年 12 月期の連結営業利益は、当社グループが目指す経営上の目標値であり、現時点における連結業績予想ではありません。2027 年 12 月期の連結業績予想につきましては、2026 年 12 月期決算発表時に公表する予定です。

（注2）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上